

(別紙4(2))

事業所名 グループホームあじさい「つるまい」

作成日: 平成 28年 3月 15日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2・4	利用者様が地域との交流を積極的に継続的に行える環境を整える。又事業所が地域の一員として積極的に交流を図る。	地域に密着したホームとなり、地域の方々との交流を継続的に行う。	地域の行事へ参加したり、事業所の行事に地域の方々を招待するなど、地域の方々と継続的に交流を図る。又運営推進会議の場を活用し、地域の方々に親しみを持って頂けるようホーム内での活動内容など公表を行う。	6ヶ月
2	11	管理者が頻回に変更し地域との交流が途切れたり、ご家族様、利用者様との信頼関係が構築しない。	地域の方々やご家族様、利用者様との信頼関係を築く。	地域での行事には積極的に参加し、密着した関係作りを行う。又ご家族様には利用者様の日々の様子をお伝えするなど信頼関係の構築を図る。	6ヶ月
3	20	利用者様の馴染みの関係が途切れないう継続的な支援が必要である。	馴染みの関係が構築できる。	馴染みの関係が途切れないう、馴染みの方々との行事への参加や外出などの交流の機会を設けていく。	6ヶ月
4	23	利用者様主体のケアが行えるよう職員間での情報の共有が必要である。	その人らしさを体制にケアを行う。	職員体制を整えながら、その人らしさを大切にしたい介護計画が作成され、適切に実施されるよう職員間での情報共有を行う。	6ヶ月
5	33	利用者様の重度化や終末期に備えた体制が万全ではない。	住み慣れた環境でいつまでも過ごせる。	住み慣れた環境で終末期を望まれる方や重度の方に対して受け入れ体制を整え、スタッフのスキルアップやご家族様、医療機関などの関連機関との連携を図り、職員一丸となって取り組む体制を整える。	6ヶ月
6	35	災害時、福祉避難所であるため地域との協力体制を深める必要がある。	災害時の避難方法など身に付けるとともに地域との協力体制を築く。	災害時、福祉避難所であるため、地域の方などの一時避難場所として開放する。災害時の避難方法など全職員が身に付けるよう、避難訓練の実施や備蓄品の確保など日ごろから体制を整える。又地域の方々との連携が図れるよう地域での避難訓練などへも参加を行う。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。